

第5集が  
リリース!!

GALE PRIMARY SOURCES

ARCHIVES OF  
SEXUALITY AND GENDER

フランス国立図書館の発禁本コレクション  
「地獄 (L'Enfer)」を電子化

HISTOIRE D'O NOTRE-DAME  
DES FLEURS

par  
Pauline Réage  
avec une préface de  
Jean Paulhan  
de l'Académie française

JEAN GENET

HISTOIRE  
DE  
DOM B\*\*\*\*\*  
PORTIER DES CHARTREUX.

HISTOIRE  
DE  
JULIETTE  
LES PROSPÉRITÉS DU VICE  
PAR LE MARQUIS DE SADE

LES PRIVÉS  
ou  
AMOURS SECRÈTES  
DE  
LORD BYRON  
Faisant Connaitre

LESBOS

LE PETIT  
Polisson  
ou  
Le Chanteur Joyeux  
Par M<sup>r</sup> Libertini

Archives of Sexuality & Gender, Part 5

# L'Enfer de la Bibliothèque nationale de France

# Archives of Sexuality and Gender, Part 5

## L'Enfer de la Bibliothèque

### フランス国立図書館の発禁本コレクション 「地獄 (L'Enfer)」を電子化

セクシュアリティとジェンダーに関する歴史資料を電子化して提供するデータベースシリーズ Archives of Sexuality and Gender の第5集は、フランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France) が所蔵する発禁本コレクション「地獄 (L'Enfer)」を電子化します。1830年代に公序良俗に反するとみなされた書籍を隔離することを目的として開設された「地獄コレクション」は同じ頃、大英図書館で開設された「プライベート・ケース (Private Case)」と並ぶ欧米二大発禁本コレクションの一つです。「プライベート・ケース」を電子化した Archives of Sexuality and Gender の第3集に続き、「地獄コレクション」の電子化により欧米二大発禁本コレクションが平易にアクセスできるようになります。

当初150冊ほどの書物を含んでいた「地獄コレクション」は押収、寄贈によって規模を拡大しました。また書籍商やオークションを通して購入する機会も増え、国立図書館がコレクションを積極的に拡充する姿勢を示すようになりました。1969年には、社会の道德観念が変化したことを理由としてコレクションが閉鎖されますが、再開の要望に応える形で1983年に再開されます。その後、発行時に発禁処分を受けたことがコレクションに追加される基準の一つとなりましたが、コレクション自体は貴重書コレクションの性格を帯びようになっています。かつて「地獄コレクション」は閲覧が厳しく制限され、閲覧するには館長への閲覧申込と学芸員による諮問委員会の審査をパスしなければなりません。

この度電子化されたコレクションは、書籍、手稿、銅版画、リトグラフ、写真の他、1880年代から1930年代にかけてフランスで一世を風靡した鞭打小説のジャンルの作品も収録します。16世紀から20世紀までに刊行されたフランス語を中心に英語、イタリア語、ドイツ語等、欧米諸語の性愛文献を一望の下に収めるもので、書物史、書誌学の観点からもその価値は計り知れず、本コレクションの参照なしに性愛文献の学術研究は成立し得ません。

### フランス語文献を中心に、近世から現代までの性愛文学の古典的作品を収録

収録文献はフランス語文献が8割以上を占め、残りは英語、イタリア語、ラテン語、ドイツ語等の文献で構成されます。フランス人作家では、17世紀のニコラ・ショリエ、18世紀のレチフ・ド・ラ・ブルトヌヌ、アンドレア・ド・ネルシア、マルキ・ド・サド、ミラボー伯爵から、19世紀のミュッセ、テオフィル・ゴティエ、20世紀のピエール・ルイス、アポリネール、ジョルジュ・バタイユ、ポーリーヌ・レアージュ、

ジャン・ジュネまで、フランス性愛文学史上の代表的な作家の作品が収録されています。フランス以外では、イタリアのピエトロ・アレティーノ、ロレンツォ・ヴィニエロ、イギリスのジョン・クレランド、アメリカのヘンリー・ミラー等の作品が収録されています。同一作品でも様々な版が収録されているため、版の異同を調べるにも最適なコレクションです。性愛文学史では出版人 (出版社) や批評家の存在も重要です。マルキ・ド・サドの作品を精力的に出版したジャン・ジャック・ボーヴェール、サドの作品の批評版を刊行したモーリス・エヌ、イギリス出身のパリ在住の出版人で「世界各地の鞭打ちシリーズ」で多くの鞭打小説を世に送り出したチャールズ・キャリントン、クレランド『ある遊女の回想』、ベケット『ワット』、コクトーが序文を寄せた匿名作品『白い紙』、アメリカ人作家テリー・サザーンがマクスウェル・ケントン名義で発表した『キャンディ』、クリストファー・ローグがパルミロ・ヴィカリオン伯爵名義で発表した『愛欲』、ヘンリー・ミラー『薔薇色の十字架』等々、パリにあって英語・英訳作品を刊行したオリンピア・プレス、上質紙に美しい活字で印刷された美本を出版し、性愛文学における理想の書物を追求したイジドル・リジュー、ボードレール『悪の華』の出版により作者とともに有罪判決を受け、亡命先のベルギーで『好色高踏詩集』等の性愛文学の出版を精力的に行なったオーギュスト・ブーレ・マラシ等が手掛けた作品が本コレクションを彩っています。「地獄コレクション」の電子化により、これまで特定の作家や時代に限定して注目されてきた性愛文学を近世から現代までの文学史の中に正当に位置づけることが可能になります。

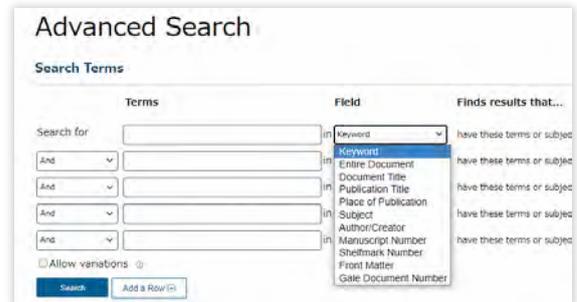
### 《シリーズ既刊》

- Archives of Sexuality and Gender: LGBTQ History and Culture Since 1940, Part I  
英米を中心に性的マイノリティの当事者の個人文書、団体文書、定期刊行物等、約130万ページの資料を収録
- Archives of Sexuality and Gender: LGBTQ History and Culture Since 1940, Part II  
第1集に続き、個人文書、団体文書、定期刊行物、オーラルヒストリー等、約143万ページの資料を収録
- Archives of Sexuality and Gender: Sex and Sexuality, Sixteenth to Twentieth Century  
性愛文学、性科学、風俗史等、ルネサンスから20世紀までの性に関する文献約5,600巻(約127万ページ)を収録
- Archives of Sexuality and Gender: International Perspectives on LGBTQ Activism and Culture  
南アフリカ、オーストラリアなど、国際的なLGBTQ運動の広がり多様性に焦点を当てるコレクション

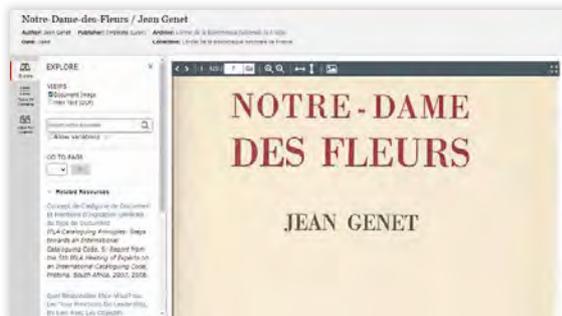
# nationale de France



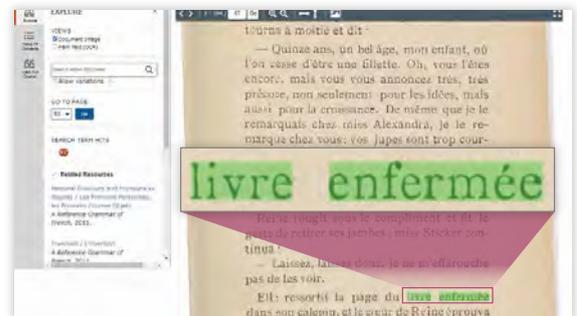
トップページ



詳細検索（検索範囲の指定・掛け合わせ検索・ファジー検索）



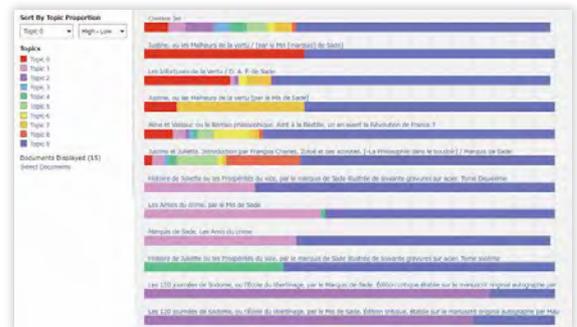
文書表示画面



一字一句をフルテキスト検索、検索語はハイライト表示



統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では、追加コストなしで導入済みの Gale の買切データベースとの横断検索ができます。



別契約の Gale Digital Scholar Lab では、様々なテキストマイニングのツールをご利用になれます。上の例はマルキ・ド・サドの作品を対象にトピックモデリングの分析結果を表示したものです。

## データベースの概要

- ◆ **収録資料**：書籍約 2,500 冊（約 47 万ページ）
- ◆ **原資料所蔵機関**：フランス国立図書館（BnF）
- ◆ **言語**：フランス語、英語、イタリア語、ドイツ語、ラテン語ほか
- ◆ **年代**：1530 年代～ 2010 年代
- ◆ **解題**：「フランス国立図書館の《地獄》」（フランス国立図書館稀観書部門名誉司書マリー・フランソワ・キニャール）
- ◆ **機能**：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR/HTR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google / Microsoft ログインとクラウド連携を実装

## 収録文献(例)

### 辞典・図録

- ◆ ニコラ・ブロンドー『好色用語辞典』(1885)
- ◆ アルフレッド・デルヴォー『近代好色用語辞典』(1864)
- ◆ アルフレッド・デルヴォー『近代好色用語辞典 改訂版』(1874)
- ◆ ルイ・ド・ランド『フランス語性愛用語辞典』(1861)
- ◆ アゴ스티ーノ・カラッチ『アゴ스티ーノ・カラッチの『アレティエーノ』、あるいはエロティックな体位集成』(1798)
- ◆ ジュゼッペ・マリア・ロ・デュカ『エロティック美術』(1966)
- ◆ アンドレ・ロート、ジャン・コクトー『寄港地』(1920)

### イタリア

- ◆ ボッカッチョ『デカメロン』(仏訳アントワーヌ・ル・マッソン)(全5巻)(1757-1761)
- ◆ アントニオ・コツナッツァーノ『諧謔俚諺集』(伊仏対訳)(1884)
- ◆ アントニオ・コツナッツァーノ『諧謔俚諺集』(伊英対訳)(1888)
- ◆ ピエトロ・アレティエーノ『ラジョメナンティ』(1538)
- ◆ ピエトロ・アレティエーノ『ラジョメナンティ』(全2巻)(挿絵ポール・エミール・ベカ)(1959)
- ◆ ピエトロ・アレティエーノ『ラジョメナンティ、あるいは対話集』(仏訳)(全6巻)(1882)
- ◆ ピエトロ・アレティエーノ『ラジョメナンティ』(英訳)(全6巻)(1889)
- ◆ ピエトロ・アレティエーノ『ラジョメナンティ』(仏訳アルシド・ボノー)(全3巻)(アポリネール序文、ジアマリア・マズチェッリのアレティエーノ評伝)(1959)
- ◆ アントニオ・ヴィニャーリ『男根の群』(仏訳)(1882)
- ◆ ロレンツォ・ヴィニエロ『彷徨える娼婦』(1531)
- ◆ ロレンツォ・ヴィニエロ『彷徨える娼婦』(伊仏対訳)(1883)
- ◆ ロレンツォ・ヴィニエロ『ラ・ザフェッタ』
- ◆ ジャンバティスタ・マリーノ『結婚初夜』(仏訳)(1883)
- ◆ アントニオ・ロッコ『少年アルキピアーデ学校へ行く』
- ◆ フェランテ・バラヴィッチェーノ『娼婦の口説き文句』(1648)
- ◆ ルドヴィコ・マリア・シニストラリ『デ・ソドミア・トラクタトゥス』(1879)
- ◆ ルドヴィコ・マリア・シニストラリ『ソドミー、とりわけトリバディズムを特徴とする女性のソドミーについて』(1883)
- ◆ グレゴリオ・レティ『ローマの売春』(仏訳)(1873)
- ◆ ジョルジオ・バッフォ『詩全集』(仏訳アルシド・ボノー)(全4巻)(1884)
- ◆ ジョルジオ・バッフォ『作品全集』(仏訳A.リボクール)(全3巻)(1876)

### フランス (16・17 世紀)

- ◆ モーリス・セーヴ『男と女の身体の紋章と反紋章』
- ◆ ピエール・ド・ロンサル『ロンサルの戯歌集』(1958)
- ◆ マチュラン・レニエ『諷刺詩集』(全2巻)(1700)
- ◆ ニコラ・ショリエ『トレットムのアロイジア・シガエアによる秘められた愛と性についてのソタデス流諷刺』(全2巻)(1660-1670)
- ◆ ニコラ・ショリエ『トレットムのアロイジア・シガエアによる秘められた愛と性についてのソタデス流諷刺』(イタリア語訳)(全2巻)(1779)
- ◆ ニコラ・ショリエ『ルイーザ・シガエアの対話：ソタデス流諷刺』(全4巻)(『トレットムのアロイジア・シガエアによる秘められた愛と性についてのソタデス流諷刺』のアルシド・ボノーによる仏訳)(1881)
- ◆ ニコラ・ショリエ『淑女たちの学園』
- ◆ ニコラ・ショリエ『ルイーザ・シガエアの対話』(全3巻)(『トレットムのアロイジア・シガエアによる秘められた愛と性についてのソタデス流諷刺』の英訳)(1890)
- ◆ ジャン・バラン(アベ・デュ・プラ名義)『修道院のウェヌス、あるいは下着姿の修道女』(1746)
- ◆ ミシェル・ミヨ『娘たちの学校、淑女の哲学』(1959)

### フランス (18 世紀)

- ◆ ジャン・バティスト・ルソー『寸鉄詩集』(1911)
- ◆ ピエール・ボーシャン『アブリウス王子物語並びに創世記以来の世界年代記抜粋、1722年に退位させられたペルシア王フサインの図書館で発見されたペルシア語写本の仏訳』(1728)
- ◆ アレクシス・ピロン『ブリアボスへの頌歌』(1903)
- ◆ アレクシス・ピロン『諧謔作品集』
- ◆ アレクシス・ピロン『愛と狂気：諷刺詩集』(フランツ・フォン・バイロスの挿絵)(1910)
- ◆ アレクシス・ピロン『コルドリエ修道院』(1903)
- ◆ アレクシス・ピロン『拾遺詩集』(1779)
- ◆ ヴォルテール『オルレアン処女』(1775)
- ◆ ヴォルテール『哲学書簡』
- ◆ ヴォルテール『オダリスク』(1796)
- ◆ ヴォルテール『カンディード』(1964)
- ◆ ヴォルテール『故バザン師の生涯と著作集』(1794)
- ◆ モールパ伯爵ジャン・フレデリック・フェリポー『ルイ14世と15世の時代の様々な人物に関する俗語、寸言、諷刺詩集成』(全6巻)(1865)
- ◆ アン・ガブリエル・ムニエ・ド・ケルロン『カルメル会修道院受付口係の物語』(1774)
- ◆ フジュレ・ド・モンブロン『深紅のソファー』(1748)
- ◆ フジュレ・ド・モンブロン『修繕屋マルゴ』(1800)
- ◆ フジュレ・ド・モンブロン『修繕屋マルゴ』(後書モーリス・サイエ)(1958)
- ◆ シャルル・コッレ『コッレ諧謔歌謡集 新版』
- ◆ シャルル・コッレ『コッレ歌謡全集』(1864)
- ◆ シャルル・コッレ『当世猥褻歌謡集』(1753)
- ◆ クロード・アンリ・ド・フュゼ・ド・ヴォワソノン『アンリ・ロシュ氏とコンドル公爵夫人による動行』(1786)
- ◆ ピエール・オノレ・ロベ・ド・ボーヴェセット『諧謔作品集』(全2巻)(1801)

- ◆ ミシェル・ジャン・スデーヌ『**図像と音楽で飾られた聖アントワヌの誘惑**』(全3巻)(1781)
- ◆ ジャック・ロシュエット・ド・ラ・モリエール『**教会の栄光、あるいはB……師の活動**』(1748)
- ◆ ドゥニ・ディドロ『**哲学断想**』(1746)
- ◆ ジャック・ロシュエット・ド・ラ・モリエール『**聖職者の誉れ**』(1748)
- ◆ ジェルヴェーズ・ド・ラトゥーシュ『**カルトゥジオ会修道院門番修道士、あるいはサトゥルナンの回想録 新版**』(全2巻)(1788)
- ◆ ジェルヴェーズ・ド・ラトゥーシュ『**カルトゥジオ会修道院門番修道士B……師の物語**』(1748)
- ◆ ダンカルヴィル男爵ピエール・フランソワ・ユグ『**12人の皇帝の私生活の記念碑**』(1780)
- ◆ ダンカルヴィル男爵ピエール・フランソワ・ユグ『**ローマ貴婦人の秘儀の記念碑**』(1784)
- ◆ エリー・カトリーヌ・フレロン、コルベール・デストゥートヴィル『**本物の快楽、あるいはヴィーナスとアドニスとの恋**』
- ◆ ロション・ド・シャパンヌ『**パリのキャンパス**』(1750)
- ◆ レチフ・ド・ラ・ブルトヌヌ『**アンチ・ジュスティース、あるいは恋の快楽**』(1798)
- ◆ レチフ・ド・ラ・ブルトヌヌ『**ムッシュー・ニコラ、あるいは暴かれた人間の心**』(全6巻)(ジャン・ジャック・ポーヴェール版)(1959)
- ◆ レチフ・ド・ラ・ブルトヌヌ『**エロティック作品全集**』(1953)
- ◆ レチフ・ド・ラ・ブルトヌヌ『**アンジェニユ・サクサンクール**』(ジャン・ジャック・ポーヴェール版)(1960)
- ◆ アンドレア・ド・ネルシア『**フェリシア、あるいは私の愚行録**』(全4巻)(1776)
- ◆ アンドレア・ド・ネルシア『**肉体の悪魔**』(全6巻)(1806)
- ◆ アンドレア・ド・ネルシア『**アフロディテの信徒たち、あるいは快楽の歴史のためのタレイア＝プリアポス風断章**』(全2巻)(1793)
- ◆ アンドレア・ド・ネルシア『**モンローズ、あるいは宿命のリベルタン**』(1792)
- ◆ アンドレア・ド・ネルシア『**我が修業時代、あるいはロロットの喜び**』
- ◆ アンドレア・ド・ネルシア『**新しい物語集**』(プーレ・マラシの評伝・書誌解題)
- ◆ マルキ・ド・サド『**アリーヌとヴァルクール、あるいは哲学小説**』(全4巻)(1795)
- ◆ マルキ・ド・サド『**アリーヌとヴァルクール、あるいは哲学小説**』(全4巻)(1883)
- ◆ マルキ・ド・サド『**新ジュスティース、あるいは美徳の不幸**』(全10巻)(1797)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュスティース、あるいは美徳の不幸**』(全2巻)(1791)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュスティース、あるいは美徳の不幸**』(第3版)(全4巻)(1801)
- ◆ マルキ・ド・サド『**新ジュスティース、あるいは美徳の不幸**』(全4巻)(ジャン・ジャック・ポーヴェール版)(1953)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュスティース、あるいは美徳の不幸**』(序文ジョルジュ・バタイユ)(ジャン・ジャック・ポーヴェール版)(1955)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュスティース、あるいは美徳の不幸**』(英訳ピエラレッサンドロ・カサヴィーニ(オーストリン・ウエインハウス))(1953)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュスティース、美徳の不幸**』(英訳ハリエット・ソーマーズ)(1953)
- ◆ モーリス・エヌ『**『新ジュスティース』のための111の覚書**』(1956)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュリエット物語、あるいは悪徳の栄え**』(全6巻)(1797)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュリエット物語、あるいは悪徳の栄え**』(独訳)(1892)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジュリエット物語、あるいは悪徳の栄え**』(全4巻)(英訳ピエラレッサンドロ・カサヴィーニ(オーストリン・ウエインハウス))(1958-1960)
- ◆ マルキ・ド・サド『**閨房哲学**』(全2巻)(1795)
- ◆ マルキ・ド・サド『**閨房哲学**』(英訳ピエラレッサンドロ・カサヴィーニ(オーストリン・ウエインハウス))(1953)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ソドム百二十日、あるいは淫蕩学校**』(オリジナル草稿に基づく初の出版)(注釈オイゲン・デューレン博士)(1904)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ソドム百二十日**』(全2巻)(モーリス・エヌ批評版)(1931-1935)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ソドム百二十日**』(全3巻)(モーリス・エヌ批評版)(1953)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ソドム百二十日、あるいは淫蕩学校**』(全3巻)(ジャン・ジャック・ポーヴェール版)(1953)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ソドム百二十日、あるいは淫蕩学校**』(英訳ピエラレッサンドロ・カサヴィーニ(オーストリン・ウエインハウス)、序文ジョルジュ・バタイユ)(1954)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ゾロエと二人の侍女**』(1800)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ジェローム物語**』(1936)
- ◆ マルキ・ド・サド『**ヴェニスの娼家**』(1921)
- ◆ マルキ・ド・サド『**犯罪の友**』
- ◆ フランソワ＝フェリックス・ノガレ『**フランス風アレティーノ**』(1787)
- ◆ 作者不詳『**カルトゥジオ会修道院門番修道士D. - B. - の妹ジュゾンの回想**』(1783)
- ◆ シャルル・テヴノー・ド・モランド『**グルダン夫人書簡集**』(1910)
- ◆ ピエール・ジャン・バティスト・ヌガレ『**リュセット、あるいは放蕩の進行**』(全3巻)(1765-1766)
- ◆ ミラボー伯爵『**エロティカ・ビプリオン**』(1783)
- ◆ ミラボー伯爵『**やんごとなきリベルタン、あるいはわか改宗**』
- ◆ ミラボー伯爵『**引き上げられたカーテン、あるいはローラの教育**』
- ◆ ミラボー伯爵『**引き上げられたカーテン、あるいはローラの教育**』(英訳)
- ◆ シモン・ピエール・メラール・ド・サン・ジュスト(バルマレーズ侯爵夫人名義)『**著作集**』(全2巻)(1880)
- ◆ シルヴァン・マレシャル『**1790年の貞節な女たちの暦**』(1870)
- ◆ シャルル・ジョゼフ・ド・マイエール『**フランス国王ルイ16世王妃、オーストリアのマリー・アントワネットの生涯：処女喪失から1791年5月1日まで**』(全2巻)(1793)
- ◆ ジャック・ピエール・ブリッソー『**マリー・アントワネットの生涯に関する歴史的試論**』(1789)
- ◆ 『**マリー・アントワネットのタレランへの告白**』(1873)
- ◆ 作者不詳『**シャルロとトワネットの恋**』(1789)
- ◆ 作者不詳『**新淑女たちの学園、あるいはマドモワゼルB…の物語**』(1774)
- ◆ 作者不詳『**ピウス6世によりフランスの聖職者のために設立された娼家**』(1790)
- ◆ 作者不詳『**地方連合のための王妃後援の国営娼家**』(1790)
- ◆ 作者不詳『**王立娼家**』(1790)
- ◆ 作者不詳『**カロリーヌとサンティエール、あるいはパレ・ロワイヤルの娼婦**』(全2巻)(1799)
- ◆ 作者不詳『**フランスのメッサリーナ、あるいはポリニャック公爵夫人の夜**』(1789)
- ◆ 作者不詳『**性の技法40**』(1789)
- ◆ 作者不詳『**哲学者テレーズ**』(全2巻)(1785)
- ◆ 作者不詳『**哲学者ジュリー、あるいはよき愛国者**』(序文・文献解題アポリネール)(全2巻)(1910)
- ◆ 作者不詳『**三部会におけるドン・ブグル、あるいはカルトゥジオ会修道院門番修道士の子**』(1792)
- ◆ ビゴールブラン『**娼家の子ども**』(全2巻)(1800)
- ◆ エヴァリスト・ド・バルニー『**神々の戦い：10の歌による詩**』
- ◆ アン・ジョゼフ・テロワニユ・ド・メリクール『**遊女と遊女の職を選んだ若い娘のための淫蕩な教理問答**』(1792)
- ◆ マドモワゼル・ロークール『**同性愛学派：マドモワゼル・サッフォーの告白**』(1920)

## フランス・ベルギー (19世紀)

- ◆ クロード・フランソワ・グザビエ・メルシエ・ド・コンピエーニュ『色狂い淫蕩詩集』
- ◆ フェリシテ・ショワズール・ムーズ『ジュリー』(1807)
- ◆ ピエール・フランソワ・ティソ『カプチン派修道士の住む家』(1820)
- ◆ ピエール＝ジャン・ド・ベランジェ『全集』(1834)
- ◆ ピエール＝ジャン・ド・ベランジェ『エロティック歌謡集』(1834)
- ◆ ポール・エミール・デブロー『諧謔政治歌謡集』(1830)
- ◆ アンリ・モニエ『ジョゼフ・ブリュドムの地獄』(1866)
- ◆ アンリ・モニエ『二人のレズビアン』(1864)
- ◆ アンリ・モニエ『我々の風俗の歴史のために』
- ◆ プロスペル・メリメ『HB』(1864)
- ◆ アルフレッド・ド・ミュッセ『ガミアニ、あるいは歓楽の二夜』(1835)
- ◆ アルフレッド・ド・ミュッセ『ガミアニ、あるいは歓楽の二夜』(英訳オーストリン・ウェインハウス(オーディアル)) (1953)
- ◆ テオフィル・ゴージェ『サバチエ夫人への手紙：イタリア紀行』(1850)
- ◆ テオフィル・ゴージェ『エロティック作品集』(1953)
- ◆ テオフィル・ゴージェ『放蕩詩集』(1935)
- ◆ ジャン・ジョゼフ・ヨーステンス(ルブラン名義)『公衆の女、あるいは上流社会の娼婦の生活』(1860)
- ◆ ジャン・ジョゼフ・ヨーステンス(ルブラン名義)『カルメル会修道院修道士の放縱な恋』(1861)
- ◆ ジャン・ジョゼフ・ヨーステンス(ルブラン名義)『パリの大宮殿の恋と快楽の情景』(1861)
- ◆ ルイ・プロタ『セルフリス：悲喜劇』(1864)
- ◆ ボードレー『漂着物』(口絵：フェリシアン・ロップスのエッチング) (1866)
- ◆ ボードレー『悪の華、禁断詩編』(挿絵ピカール・ル・ドゥ) (1931)
- ◆ オーギュスト・ブーレ・マラシ『田舎の夏：二人のパリの令嬢の往復書簡』(1868)
- ◆ シャルル・ヴィルメートル『パリの鞭打つ者と鞭打たれる者たち』(1902)
- ◆ オクターヴ・ブラデル『弁護士之女』(1888)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『女友達』(1870)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『自由詩集』(1868)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『自由詩集』(挿絵ポール・エミール・ベカ) (1948)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『女たち』(1893)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『女たち』(挿絵グスタフ・クリムト) (1926)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『男たち』(1904)
- ◆ ポール・ヴェルレーヌ『男たち』(パリズール書簡、注釈アヴィナン・ミルール(バスカル・ピア名義)) (1926)
- ◆ 『新・19世紀好色高踏派詩集』
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『快楽の村』(1907)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『奥様の告白』(1891)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『マルヴジャヌのマルグリットの手ほどき』(1891)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『マルグリットの手帖』(1892)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『モンティエルスィのマルトの手ほどき』(1892)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『模範的な亭主たち：一幕劇』(1900)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『人騒がせな夜：一幕通俗喜劇』(1892)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『秘密の手紙』(全2巻) (1891-1893)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『半処女協会』(全2巻) (1899)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『ダニエルの結婚』(1899)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『ムッシュ・ジュリー、寄宿学校の女主人』(1900)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『処女性の歴史』(1900)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『呪われた都市』(1907)
- ◆ アルフォンス・モマ(ル・ニスモア名義)『小さな人々と淫蕩な人々』(1899)
- ◆ アルフォンス・モマ(C男爵名義)『女帝の恋の錯乱』(1900)
- ◆ ジャン・リシュパン『乞食たちの歌』(1881)
- ◆ モーパッサン『バラの葉陰で、メゾン・トルコ』(1945)
- ◆ アルチュール・ランボー『淫蕩詩篇』(1876)
- ◆ レオ・タクシル『告解と聴罪司祭』(1882)
- ◆ ルイ・マルテスト(ジャック・ディシィ名義)『裏切られたポレット』
- ◆ ルイ・マルテスト(ジャック・ディシィ名義)『女曲馬師シュザンヌ』
- ◆ ルイ・マルテスト(ジャック・ディシィ名義)『ポレット氏とその妻たち』(1921)
- ◆ ラファエル・ヴィオー『女の悪習』(英語) (1922)
- ◆ マルタン・ファン・メール『生者たちの大いなる死の舞踏』(全4巻) (1907-1908)
- ◆ ミシェル・モーフィー『聖職者のボルノグラフィーの謎』(1884)
- ◆ E.D.『あるロシア人パレリーナの回想』(1904)
- ◆ E.D.『私のヴィクトワールとの恋』(1888)

## フランス・ベルギー (20世紀)

- ◆ ピエール・ルイス『アフロディット：古代の風俗』(全3巻) (1928)
- ◆ ピエール・ルイス『ゴンザルブ王と12人の王女の物語』(1927)
- ◆ ピエール・ルイス『母親の三人の娘』
- ◆ ピエール・ルイス『ピブラック：恋愛四行詩』(1933)
- ◆ ピエール・ルイス『恋愛詩集』
- ◆ ピエール・ルイス『未刊恋愛詩集』(1945)
- ◆ ピエール・ルイス『未刊詩集 1887-1924年』(1938)
- ◆ ピエール・ルイス『女学校用少女のための礼儀作法手引』(1948)
- ◆ ピエール・ルイス『少女への助言』
- ◆ ピエール・ルイス『ピリティスの秘められた歌』(1961)
- ◆ ピエール・ルイス『ジョゼフィーヌの回想』(1894)
- ◆ ポール・レオター『私的日記』(全2巻) (1956)
- ◆ ジャン・ド・ヴィリオ『ハレムの鞭』(1906)
- ◆ ジャン・ド・ヴィリオ『ミス・クートの告白』(1906)
- ◆ ジャン・ド・ヴィリオ『鞭の魅惑、あるいはミス・ダーシーの無分別』(1902)
- ◆ ジャン・ド・ヴィリオ『ヴァージニアにて：南北戦争の挿話』(1901)
- ◆ アポリネール『ボルジア家のローマ』(1914)
- ◆ アポリネール『エロティック作品全集』(全3巻) (1934)
- ◆ アポリネール『一万一千本の鞭』(1948)
- ◆ アポリネール『若きドン・ジュアンの冒険』(オリジナル石版画12枚) (1927)
- ◆ アポリネール『自由詩集』(1948)
- ◆ ピエール・マッコラン(サディ・ブラッケイズ名義)『小さなタイピスト』(1933)

- ◆ ピエール・マッコルラン (サディ・ブラックイズ名義)『尻を叩かれたリーズ』
- ◆ ピエール・マッコルラン (ピエール・ドゥ・ブールデル名義)『ソムラージュ嬢の恋の冒険、あるいは恐怖政治の時代における高貴な令嬢の放蕩な冒険』(1910)
- ◆ ピエール・マッコルラン (ピエール・ドゥ・ブールデル名義)『ミュステル嬢とその友人』(1928)
- ◆ ピエール・マッコルラン『ヴィーナスの秘密の週』(ジョルジュ・バルビエのオリジナル挿絵) (1926)
- ◆ シャルル・デュレンヌ『ミュージズの浮気心』(1920)
- ◆ ルイ・ペルソー(アレクサンドル・ド・ヴェリノー名義)『ブリアボス』(1920)
- ◆ ルイ・ペルソー(アレクサンドル・ド・ヴェリノー名義)『12の淫蕩ソネット』(1925)
- ◆ ルイ・ペルソー(アレクサンドル・ド・ヴェリノー名義)『ベッドの傍らで:スタンス』(1927)
- ◆ ルイ・ペルソー『高踏派の秘密の小部屋』(1928)
- ◆ ルイ・ペルソー『小娘、詩』(1934)
- ◆ アンドレ・ロリュロ『鞭打ちと性的倒錯』(1955)
- ◆ アンドレ・ロリュロ『恋のいかさまとごまかし』(1956)
- ◆ ジャン・コクトー『秘密の博物館』(1920)
- ◆ 匿名『白い紙』(ジャン・コクトー序文・挿絵) (1957)
- ◆ ルイ・アラゴン『イレヌス』(序文ジャン=ジャック・ポーヴェール) (1968)
- ◆ ルイ・アラゴン『イレヌスのコン』(序文アンドレ・ピエール・ド・マルディアルグ) (1962)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ『死者』(1967)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ『死者』(挿絵アンドレ・マッソン) (1964)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ(オーシュ脚名義)『眼球譚 新版』(ハンス・ベルメールの銅版画) (1940)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ(オーシュ脚名義)『眼球譚 新版』(1941)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ『眼球譚』(1967)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ(ピエール・アンジェリック名義)『マダム・エトワルダ』(ジャン=ペルドゥの銅版画) (1942)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ(ピエール・アンジェリック名義)『マダム・エトワルダ』(注釈ジャン=ジャック・ポーヴェール) (1956)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ(ピエール・アンジェリック名義)『マダム・エトワルダ』(1937)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ『マダム・エトワルダ 新版』(1966)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ『マダム・エトワルダ』(ハンス・ベルメールの銅版画) (1965)
- ◆ ジョルジュ・バタイユ『我が母』(1966)
- ◆ バンジャマン・ペレ『いきり立った辜丸』(1954)
- ◆ バンジャマン・ペレ『1929』(共著者ルイ・アラゴン、写真マン・レイ)
- ◆ レーモン・ラディゲ『自由詩』(1925)
- ◆ パスカール・ピア『愛の園』(タイトルページの著者名はアポリネール) (挿絵レオナルド・フジタ) (1924)
- ◆ ジョルジュ・ヴィダル『ゲリニーのジョルジュ』(1954)
- ◆ ジョルジュ・シム(ジョルジュ・シムノン)『娼婦の回想』(1929)
- ◆ ジルベール・レリー『ソタデスの詩集』
- ◆ ポーリーヌ・レアージュ(ドミニク・オーリー)『O嬢の物語』(序文ジャン・ポーラン「奴隷状態の幸福」) (挿絵レオナルド・フィニ) (1962)
- ◆ アンドレ・ピエール・ド・マルディアルグ『満潮』(1962)
- ◆ ジャン・ジュネ『詩集』(1962)
- ◆ ジャン・ジュネ『花のノートルダム』(1943)
- ◆ ジャン・ジュネ『花のノートルダム』(英訳) (1949)
- ◆ ジャン・ジュネ『葬儀』(1947)
- ◆ ジャン・ジュネ『薔薇の奇蹟』(1946)
- ◆ ジャン・ジュネ『プレストの乱暴者』(1947)
- ◆ ピエール・ベタンクール(ジャン・サディネ名義)『王の快樂』(全2巻) (1953)
- ◆ ピエール・ベタンクール『優柔不断』(1942)
- ◆ ボリス・ヴィアン(ヴァーノン・サリバン名義)『墓に唾をかけろ』(1948)
- ◆ エレナ・ヴァーレイ『今時の若い娘』
- ◆ ロベール・セルメーズ『肉欲の序章』(1953)
- ◆ ロベール・セルメーズ『肉欲の序章』(英訳) (1938)
- ◆ アンドレ・シベール『アリスとその奴隷』(1974)
- ◆ アンドレ・シベール『愛における奴隷状態』(1978)
- ◆ アラン・マック・クライド『女権制』(1934)
- ◆ アラン・マック・クライド『恐怖の都市』(1933)
- ◆ アラン・マック・クライド『女奴隷ドリー』(1936)
- ◆ アラン・マック・クライド『調教』
- ◆ アラン・マック・クライド『勝ち誇った革』(1934)
- ◆ アラン・マック・クライド『エナメル革のマドンナ』(1937)
- ◆ アラン・マック・クライド『革と肌』(1934)
- ◆ アラン・マック・クライド『隷属』(1934)
- ◆ アラン・マック・クライド『鞭とヒラヒラ飾り』(1934)

## イギリス・アイルランド

- ◆ ジョン・クレランド『……の回想』(全2巻) (1747年頃)
- ◆ ジョン・クレランド『ある遊女の回想』(全2巻) (1749)
- ◆ ジョン・クレランド『クレランド氏の『遊女』の新訳』(仏訳) (1776)
- ◆ ジョン・クレランド『クレランド氏の遊女』(仏訳フジュレ・ド・モンブロン) (全2巻) (1786)
- ◆ ジョン・クレランド『遊女、あるいはミス・ファニー自身により書かれた回想』(仏訳) (全2巻) (1790)
- ◆ ジョン・クレランド『ファニー・ヒルの回想:1749年の原著の新版』(1888)
- ◆ ジョン・クレランド『ファニー・ヒルの回想』(仏訳) (イジドール・リジューによる初の完訳)
- ◆ ジュリアン・ロビンソン『女権制』(全3巻) (1893)
- ◆ 作者不詳『我が秘密の生涯』(全3巻) (1885)
- ◆ 作者不詳『我が秘密の生涯』(全3巻) (仏訳) (1885)
- ◆ 作者不詳『テレンシー、あるいはメダルの裏側』(全2巻) (1906)
- ◆ 作者不詳『愛欲のロマンス、あるいは早い経験』(全4巻) (1892)
- ◆ 作者不詳『イギリスの寄宿学校の秘められた生活:ある放蕩者の回答』(全3巻) (1905-1906)
- ◆ チャールズ・ドゥヴロー『インドのヴィーナス、あるいはヒンドゥスタンにおける愛の冒険』(全2巻) (1898)
- ◆ D.H. ロレンス『チャタレー夫人の恋人』(1929)
- ◆ サミュエル・ベケット『ワット』(1953)
- ◆ フィリップ・オコナー『スタイナーの旅行』(1960)
- ◆ アレクサンダー・トロッキー(フランシス・レンゲル名義)『ヘレンと欲望』(1954)
- ◆ アレクサンダー・トロッキー(フランシス・レンゲル名義)『若きアダム』(1954)
- ◆ アレクサンダー・トロッキー(フランシス・レンゲル名義)『ヘレン・セフェリスの愛欲の日々』(1954)
- ◆ クリストファー・ローグ(パルミロ・ヴィカリオン伯爵名義)『愛欲』(1954)

## ドイツ・オーストリア・ロシア

- ◆ ヴィルヘルミーネ・シュレーダー-デフリント『ドイツ人歌手の回想』(仏訳)(序文アポリネール)(1961)
- ◆ エルンスト・シェルテル『文学と彫刻における鞭打趣味』(1957)
- ◆ リーニュ公シャルル・ジョゼフ『前後あべこべ』(1867)
- ◆ コンスタンティン・アンドレーヴィッチ・ソモフ『侯爵夫人の本』(1918)
- ◆ コンスタンティン・アンドレーヴィッチ・ソモフ『侯爵夫人の本』(独訳フランツ・ブライ)(1908)

## アメリカ

- ◆ 『ドリー・モートンの回想』(1904)
- ◆ ヘンリー・ミラー『北回帰線』(序文アナイス・ニン)(1934)
- ◆ ヘンリー・ミラー『北回帰線』(仏訳ポール・リヴェール、序文アンリ・フルシエール)(1945)
- ◆ ヘンリー・ミラー『南回帰線』(1948)
- ◆ ヘンリー・ミラー『薔薇色の十字架』(全2巻)(1953)
- ◆ ヘンリー・ミラー『薔薇色の十字架』(全2巻)(仏訳ジャン・クロード・ルフォール)(1950)
- ◆ ヘンリー・ミラー『黒い春』(仏訳ポール・リヴェール)(1946)
- ◆ テリー・サザーン(マクスウェル・ケントン名義)『キャンディ』(1958)
- ◆ アレン・ギンズバーグ、エド・サンダース、テッド・ベリガン『Bugger! an anthology of buttockry』(1964)
- ◆ エド・サンダース『マリリンのための詩集』(サンダースの他、ジョエル・オープンハイマー、ジョン・キーズ、テラー・ミードの作品を収録)(1962)
- ◆ エド・サンダース『トークティーン詩集』(1964)
- ◆ ハリー・マッシューズ『唯一無二の享楽』(フランチェスコ・クレメンテのリトグラフ)(1988)

## 中東・インド

- ◆ ロベール・ジュリュ『古代イランにおけるエロティックな表現と愛に関する試論』(1967)
- ◆ ムハンマド・イブン・アル・ナフザウィ『匂える園:アラブ性愛術』(仏訳)(1886)
- ◆ ムハンマド・イブン・アル・ナフザウィ『匂える園:アラブ性愛術』(独訳)(1905)
- ◆ ムハンマド・イブン・アル・ナフザウィ『匂える園:アラブ性愛術』(英訳)(1952)
- ◆ ジョゼフ・シャルル・マルドリユス『ブードゥール王女物語』(1926)
- ◆ 作者不詳『アラブ人の間の結婚、愛と女性』(アラビア語からの英訳)(1896)
- ◆ 『バーツァーヤナのカーマ・スートラ:インドの性愛指南書』(仏訳)(1885)
- ◆ 『バーツァーヤナの正真正銘のカーマ・スートラ』(1929)

### ◆ 「地獄コレクション」の解説文と動画

小社ウェブサイトではフランス国立図書館名誉司書マリー＝フランソワーズ・キニャールによる「地獄コレクション」の解説文(仏語および和訳)とインタビュー動画(仏語)をご覧ください。

[bit.ly/enfer-jp](https://bit.ly/enfer-jp)



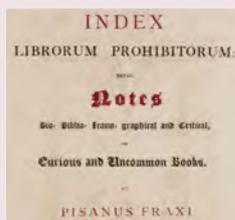
### ◆ 関連資料

ルネサンスから20世紀までの500年に亘るエロスの世界に誘うコレクション

## Archives of Sexuality and Gender: Sex and Sexuality, Sixteenth to Twentieth Century

- 1520年代から1980年代までの約5,600冊の書籍を収録
- 原資料所蔵機関: 大英図書館、インディアナ大学アルフレッド・キンゼイ性科学研究所、  
ニューヨーク医学アカデミー

- 500年に亘るポルノグラフィの作品群の他、草創期の性科学や性教育の文献
- 性に関する文献の書物史、書誌学にとっても貴重なコレクション



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける1ヶ月の無料トライアルをご提供しております。商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社までお願いします。

Tel: 03-3511-4390 E-mail: [GaleJapan@cengage.com](mailto:GaleJapan@cengage.com) URL: [www.gale.com/jp](http://www.gale.com/jp)